

令和3年度 中学生の読書環境に関する実態調査の結果について

1 調査の目的

平成31年3月に策定した第4次岡山県子ども読書活動推進計画に基づき、中学生の不読率（1か月の読書数が0冊の子どもの割合）の低減に資する効果的な取組を推進するため、中学生の読書活動に関する実態調査を実施する。

2 調査の対象

県内の公立中学校（岡山市立の中学校を除く。）及び中等教育学校（前期課程）に在籍する生徒

3 調査の時期

令和3年4月15日から5月10日まで

4 調査の方法

県内の公立中学校（岡山市立の中学校を除く。）及び中等教育学校（前期課程）の中から18校抽出（各学年6校）し、抽出された学校において、調査指定学年の中から1学級（特別支援学級を除く。）を選び、調査を実施。

〈調査への回答者数〉

564人（抽出率1.8%）

5 調査の項目

1か月の読書数等13問

令和3年8月

岡山県教育庁生涯学習課

調査結果概要

- ア 中学生の不読率（マンガ、新聞、雑誌を除く1か月の読書数が0冊の生徒の割合）は12.8%である。
- イ 中学生は、学校内で読書する割合が高い。
- ウ 中学生は電子書籍を日常的に利用しており、電子図書館へのニーズは高い。
- エ 読書に肯定的な中学生の割合は高い。
- オ 1か月の読書数が0冊の中学生が読書をしない理由は、「他にしたいことがある」と「今、読みたい本・絵本がない」が同率で第一である。
- カ 中学生は自由に使える時間の多くを、Youtubeで動画を見たり、LINEなどのSNSをしたりするなど、ソーシャルメディア等の利用に充てている傾向。
- キ 読書が「どちらかと言えば嫌い、嫌い」な中学生の読書のきっかけは、「学校で一斉読書の時間があったり、授業の課題で読む必要があること」が第一であり、友達、家族や教職員からの働きかけがあったとしても自発的な読書には繋がりがづらい傾向。
- ク 読書のきっかけとして「映画やテレビドラマを観たり、マンガを読んだりして、その原作本やノベライズ本に興味・関心を持つこと」の割合が高く、エンターテインメントから読書へ繋がる傾向。

今後の取組の方向性

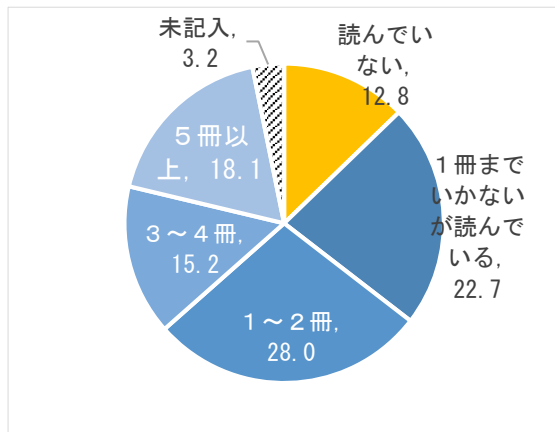
- ア 学校の読書環境の充実のための支援（アウトリーチ型も含めた公共図書館における学校図書館支援サービスの充実）
- イ 学校間及び学校と公共図書館の連携の推進（岡山県子ども読書活動推進連絡会における実践研究等）
- ウ 学校での読書活動の促進（学校での読書活動時間確保の推奨（例：一斉読書）、学校図書館の授業での活用等）
- エ 中学生向け電子図書館サービス事業の実施（電子図書館「おもしろe読書事典」）
- オ 「『楽しみ』としての読書」の推奨（中学生のニーズに沿った選書、エンターテインメントから読書への誘導（例：「映画化された本、マンガ」のブックリスト配布）等）
- カ 中学生の活動場所での広報（書店と連携した取組、インターネットを活用した発信等）
- キ 小学生及び高校生の読書環境に関する実態の把握

1 読書の環境

①不読率

- ・1か月の読書数が0冊の中学生の割合は12.8%（マンガ、新聞、雑誌を除く。）であり、マンガ、新聞、雑誌を含む場合は8.5%である。

1か月の読書数（マンガ、新聞、雑誌を除く。）
（%）〈本調査の回答者全員が対象〉



【参考】

全国の不読率の推移（%）

	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)
小学生(4-6年)	5.6	8.1	6.8
中学生	15.0	15.3	12.5
高校生	50.4	55.8	55.3

※マンガ、雑誌を除く

全国学校図書館協議会 学校読書調査

②読書の傾向

- ・最近1か月に読書をした中学生のうち、紙のものを読んだ中学生の割合は96.9%、電子書籍を読んだ中学生の割合は46.9%である。電子書籍は、本よりマンガを読む割合が高い。
- ・最近1か月に読書をした中学生のうち、マンガのみを読んでいる中学生の割合は1割程度である。

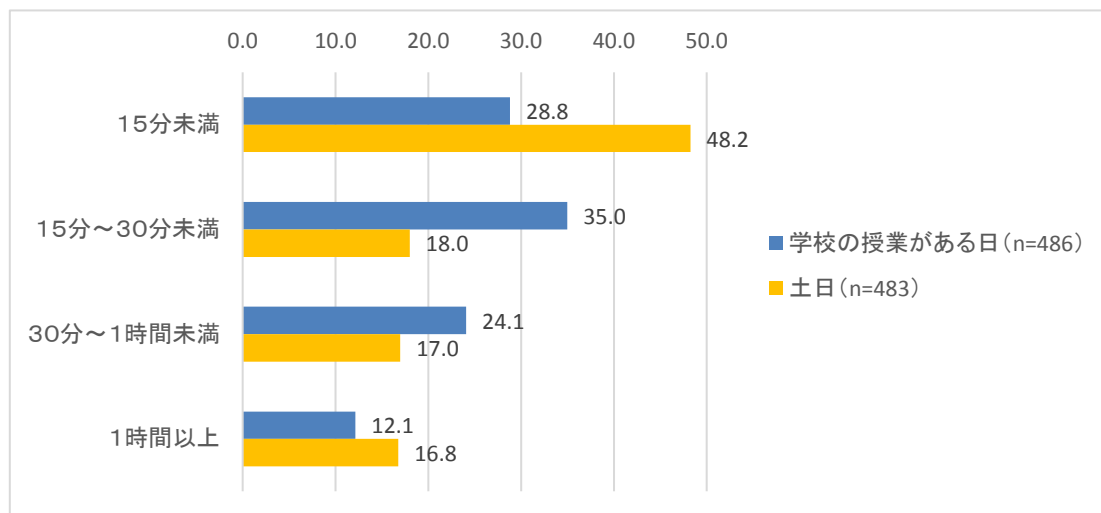
最近1か月の読書の傾向〈複数回答〉

	紙のもの	紙のもの (%) (n=514)	電子書籍	電子書籍 (%) (n=514)
本	422	82.1	94	18.3
絵本	38	7.4	5	1.0
マンガ (マンガ雑誌を含む。)	368 (うちマンガのみ 43)	71.6 (8.4)	203 (うちマンガのみ 9)	39.5 (1.8)
新聞	79 (うち新聞のみ 1)	15.4 (0.2)	11 (うち新聞のみ 0)	2.1 (0.0)
雑誌	115 (うち雑誌のみ 5)	22.4 (1.0)	18 (うち雑誌のみ 0)	3.5 (0.0)
回答者数	498	96.9	241	46.9

③読書時間

- ・読書時間（マンガ、新聞、雑誌を除く。）が15分以上の中学生の割合は、学校の授業がある日71.2%、土日51.8%である。
- ・中学生の読書時間（マンガ、新聞、雑誌を除く。）の割合は、学校がある日より、土日で「15分未満」と「1時間以上」の割合が高くなる。

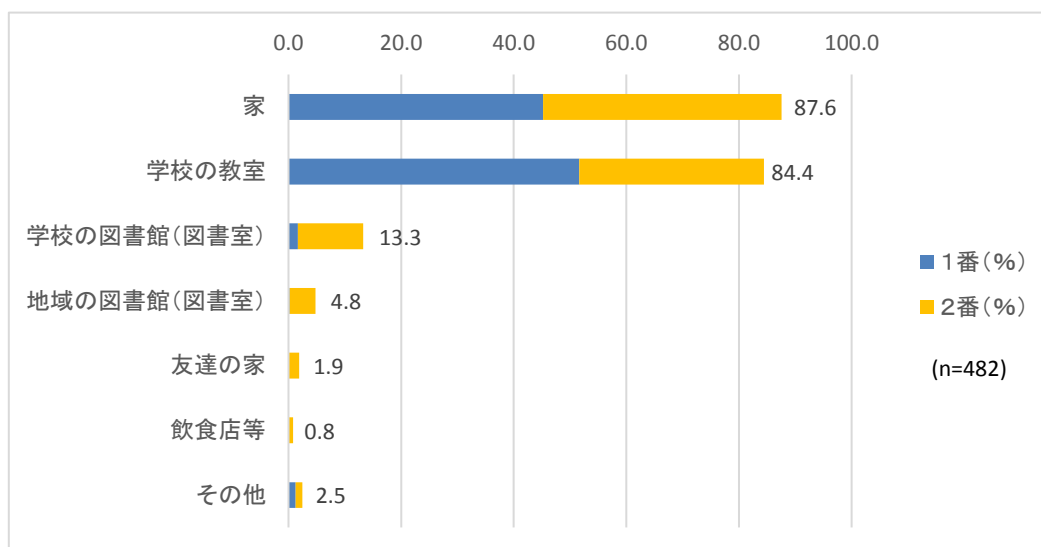
1日当たりの読書時間（マンガ、新聞、雑誌を除く。）（%）



④読書をする場所

- ・中学生が読書（マンガ、新聞、雑誌を除く。）をする場所の割合は、「家」87.6%、「学校の教室」84.4%の順に高く、その他の場所は15%以下である。ただし、読書をする場所の1番は、「学校の教室」の割合が最も高い。

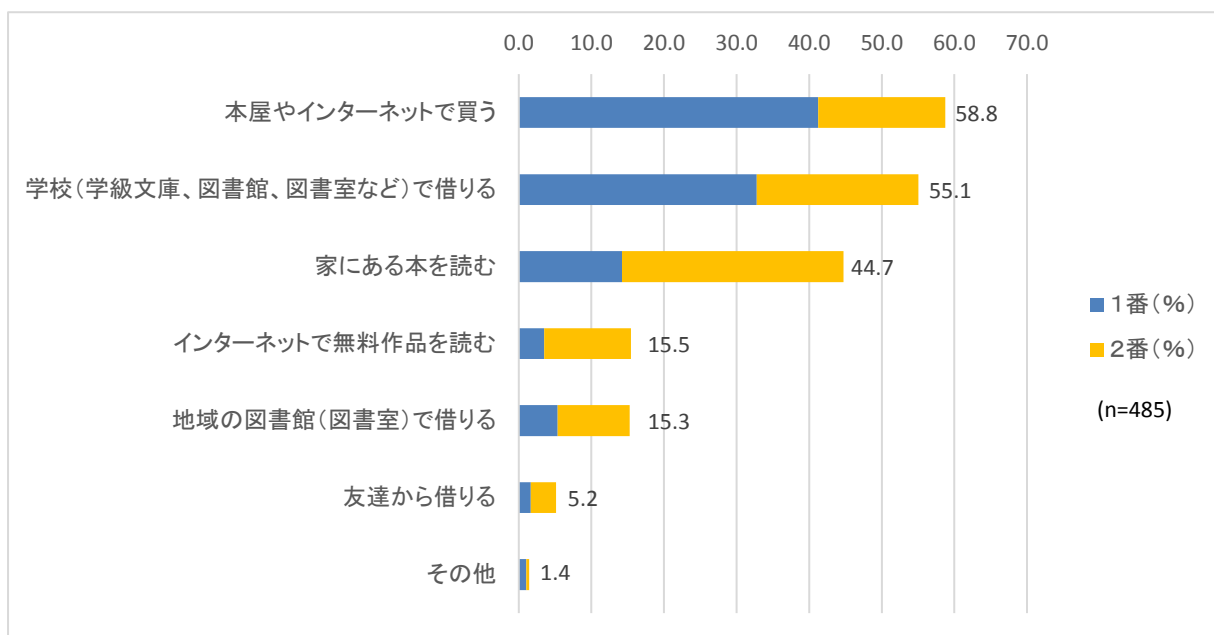
読書をする場所（マンガ、新聞、雑誌を除く。）（%）〈複数回答（2つまで）〉



⑤本・絵本を手に入れる方法

- 中学生が本・絵本を手に入れる方法の割合は、「本屋やインターネットで買う」58.8%、「学校（学級文庫、図書館、図書室など）で借りる」55.1%、「家にある本を読む」44.7%の順に高い。

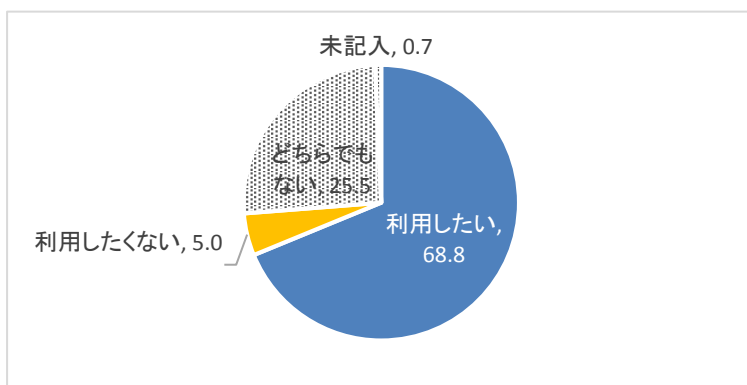
本・絵本を手に入れる方法（%）〈複数回答（2つまで）〉



⑥電子図書館への印象

- 地域の図書館（図書室）に行かなくても、自身のパソコン、タブレット、スマートフォンで電子書籍が読めたとしたら利用したい中学生の割合は68.8%である。

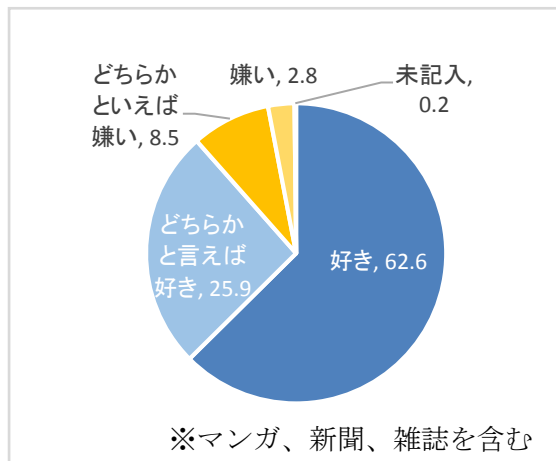
電子図書館のニーズ（%）〈本調査の回答者全員が対象〉



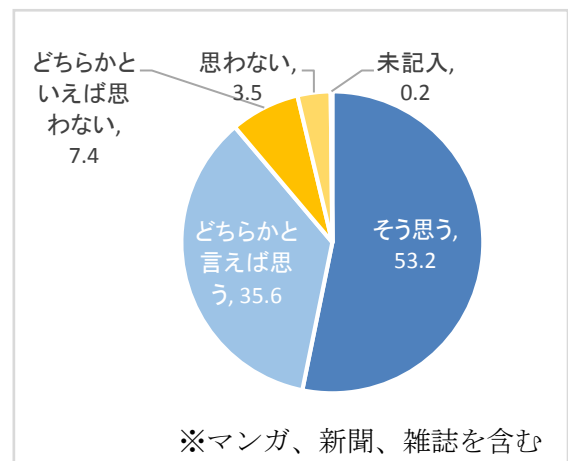
2 読書の意識

- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「好き、どちらかと言えば好き」な中学生の割合は88.5%であり、また、読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「将来の役に立つと思う、どちらかと言えば思う」中学生の割合は88.8%であることから、読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）に肯定的な中学生の割合は高い。

読書※が好き、嫌いな割合（％）
〈本調査の回答者全員が対象〉



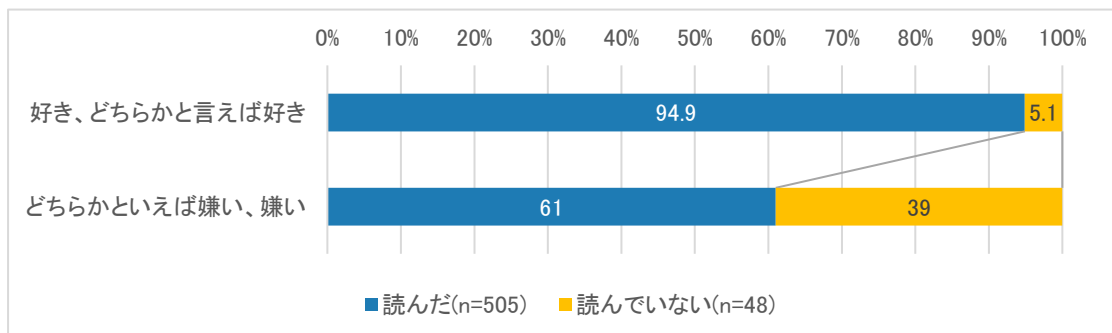
読書※が将来役に立つと思う、思わない割合（％）〈本調査の回答者全員が対象〉



①読書の好き嫌いに見た読書率

- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「好き、どちらかと言えば好き」な中学生は、「どちらかと言えば嫌い、嫌い」な中学生に比べ、最近1か月内の読書率が高い。

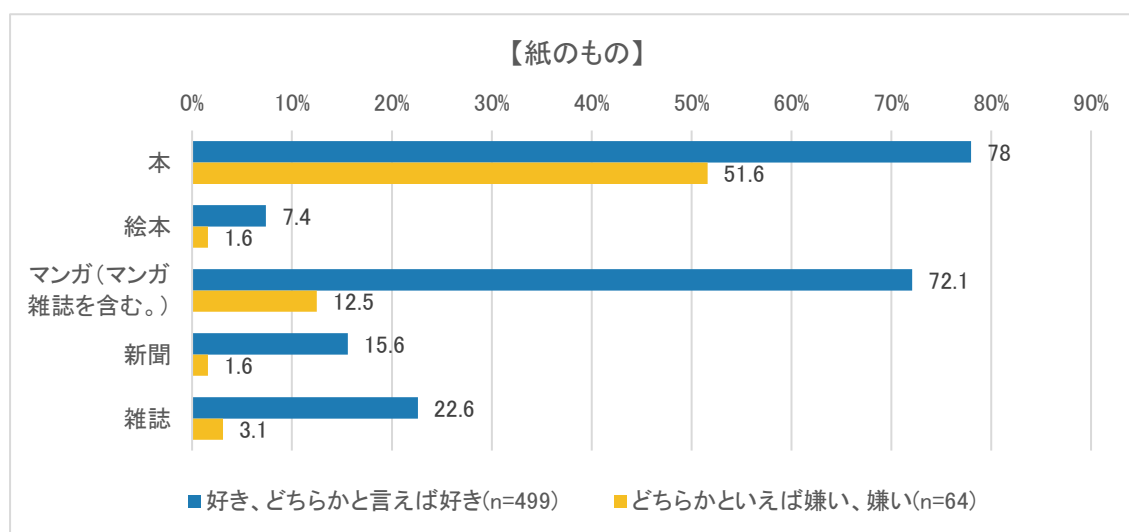
読書好き・嫌いに見た読書率（マンガ、新聞、雑誌を含む。）（％）



②読書の好き嫌いに見た読書の傾向

- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「好き、どちらかと言えば好き」な中学生は、本を読む割合とマンガを読む割合のどちらも高い。
- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「どちらかと言えば嫌い、嫌い」な中学生は、本を読む割合より、マンガを読む割合が低い。

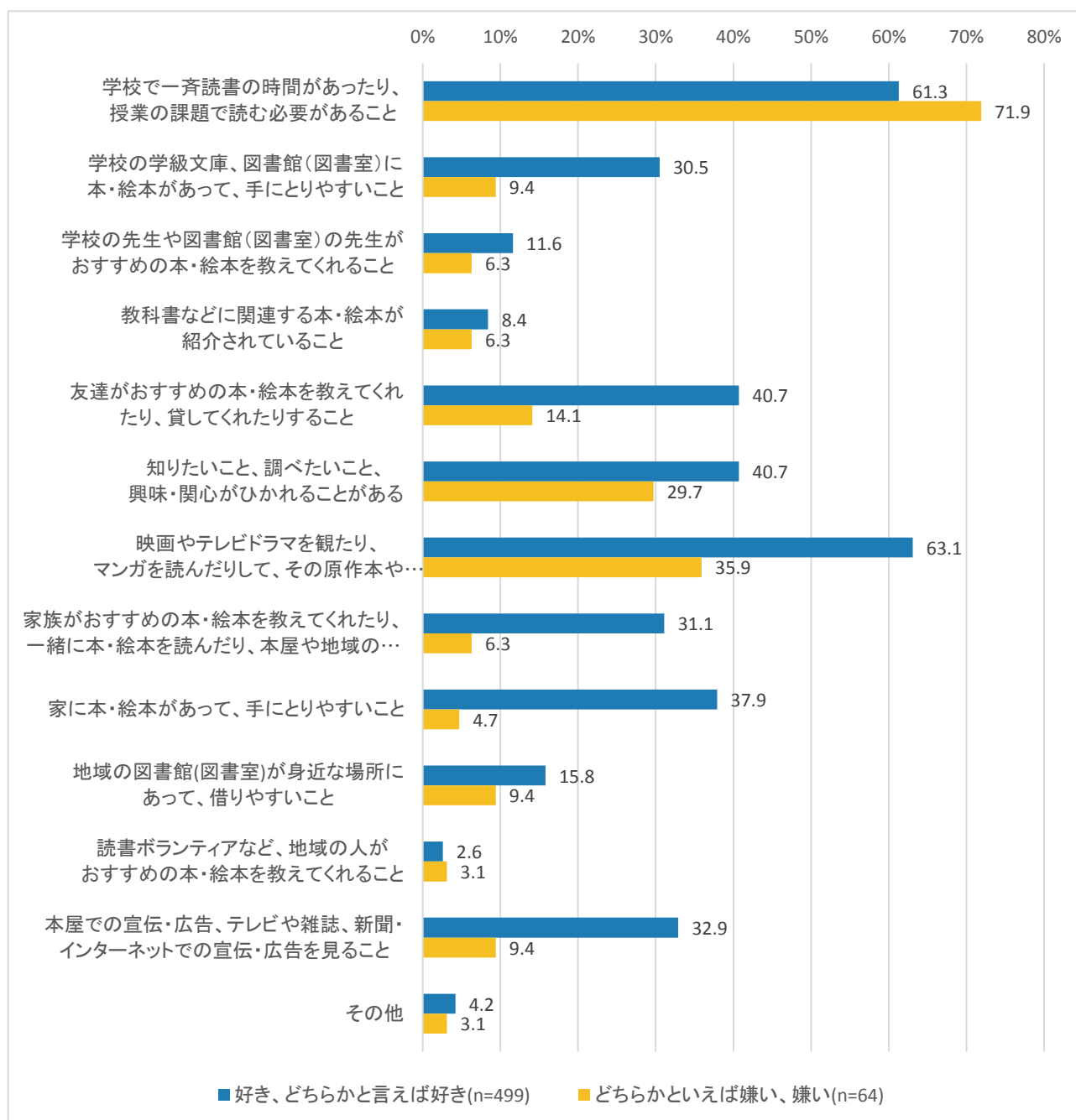
読書好き・嫌いに見た読書の傾向（マンガ、新聞、雑誌を含む。）（%）〈複数回答〉



③読書の好き嫌いに見た読書のきっかけ

- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「好き、どちらかと言えば好き」な中学生の本を読むきっかけは「映画やテレビドラマを見たり、マンガを読んだりして、その原作本やノベライズ本に興味・関心を持つこと」が第一である。
- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「どちらかと言えば嫌い、嫌い」な中学生の本を読むきっかけは「学校で一斉読書の時間があったり、授業の課題で読む必要があること」が第一である。
- ・読書（マンガ、新聞、雑誌を含む。）が「好き、どちらかと言えば好き」な中学生は、自らの興味・関心や、友達や家族からの働きかけも本を読むきっかけとなる。

読書好き嫌いに見た読書のきっかけ（％）〈複数回答〉

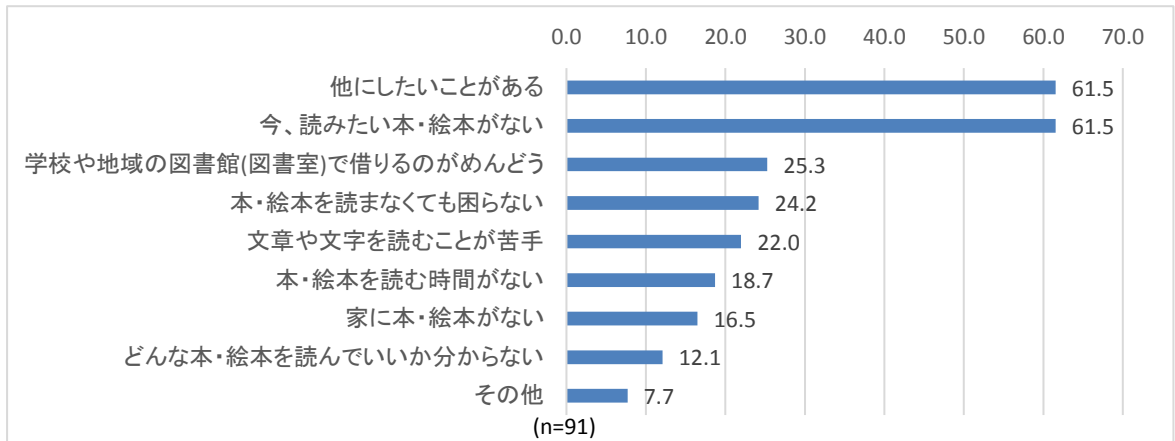


3 読書をしない理由と読書のきっかけ

①読書をしない理由

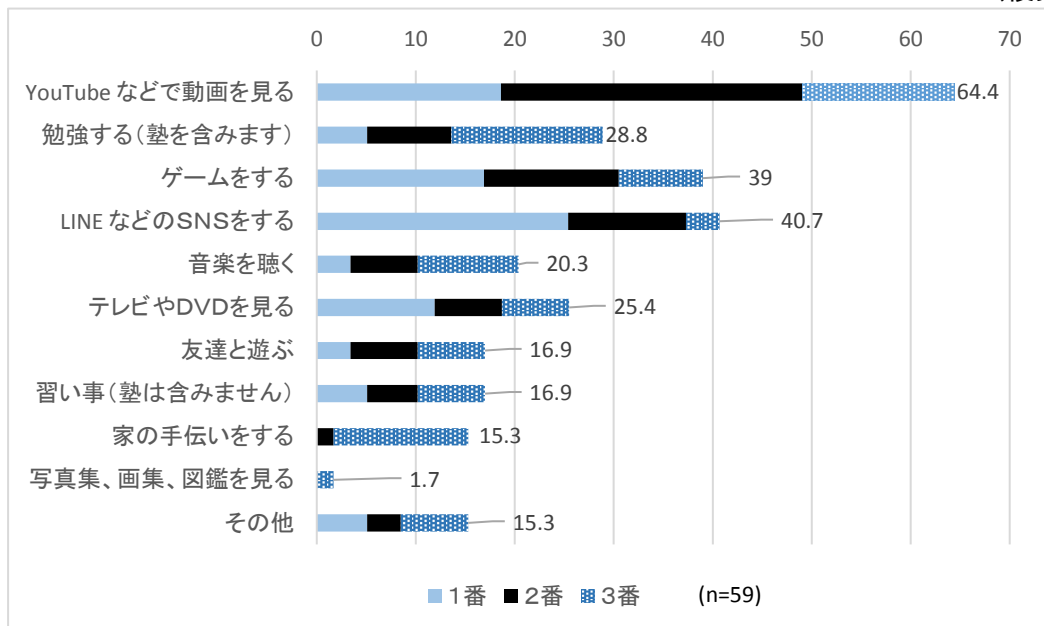
- ・1か月の読書数が0冊の中学生の読書をしない理由（マンガ・雑誌・新聞を除く。）は、「他にしたいことがある」と「今、読みたい本・絵本がない」が同率で第一である。

読書をしない理由（マンガ・雑誌・新聞を除く。）（%）〈複数回答〉



- ・1か月の読書数が0冊の中学生のうち、読書をしない理由が「他にしたいことがある」である中学生の自由に使える時間の使い方の割合は、「Youtubeなどで動画を見る」64.4%、「LINEなどのSNSをする」40.7%、「ゲームをする」39%の順に高く、回答者全体でも、「Youtubeなどで動画を見る」55.3%、「勉強する」43.1%、「ゲームをする」41.1%、「LINEなどのSNSをする」31.9%の順であり、中学生は自由に使える時間の多くをソーシャルメディア等の利用に充てている傾向がある。

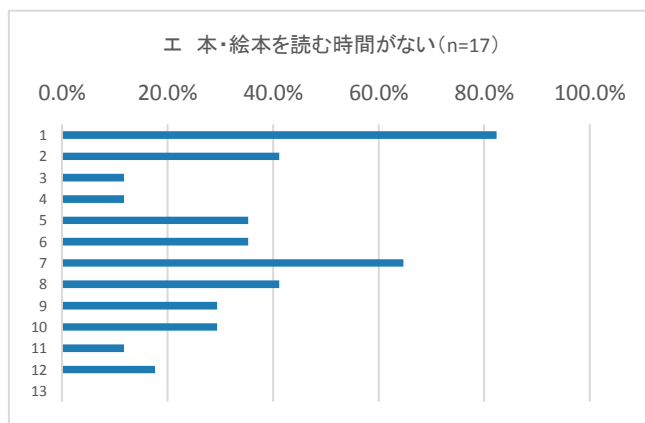
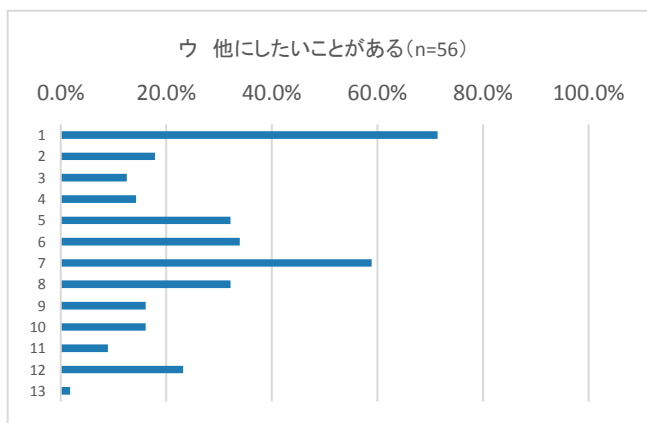
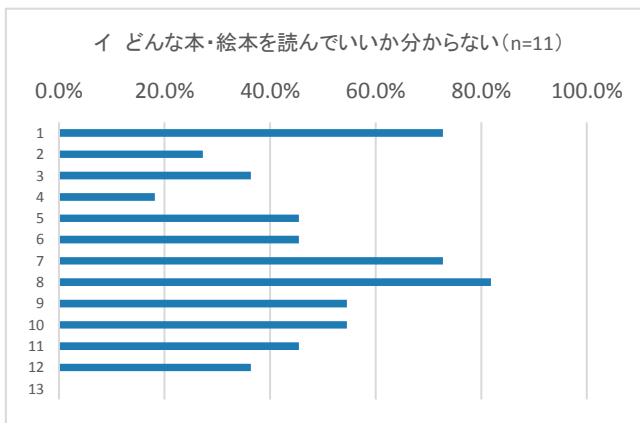
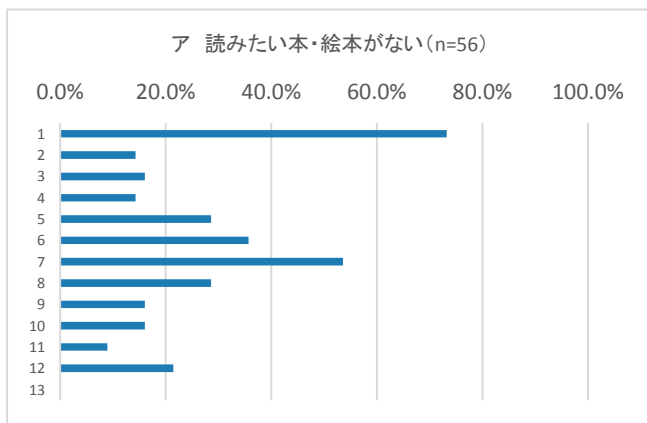
読書をしない理由が「他にしたいことがある」である中学生の自由に使える時間の使い方（%）〈複数回答〉

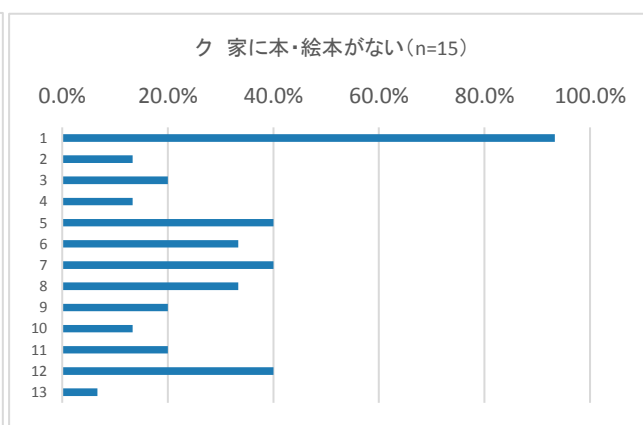
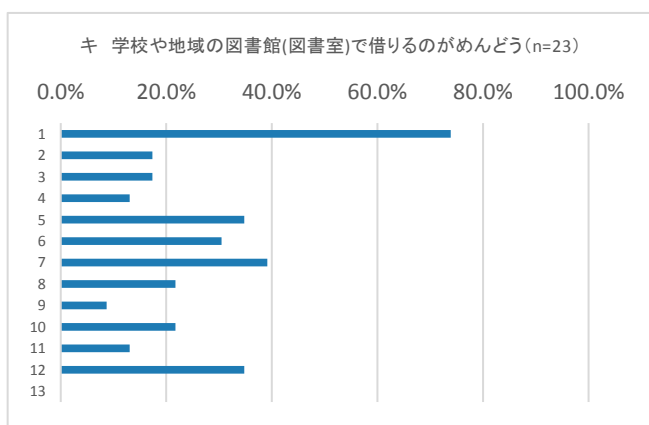
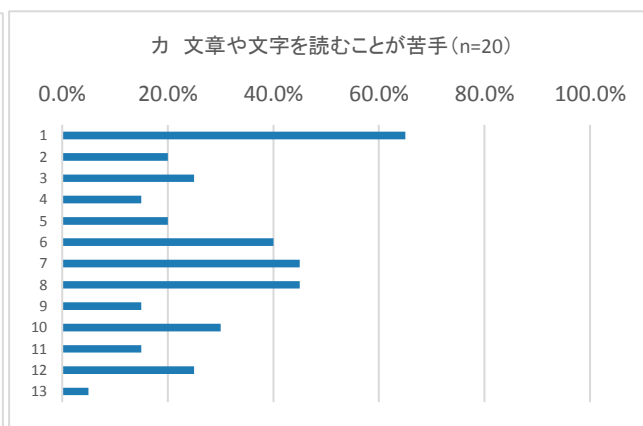
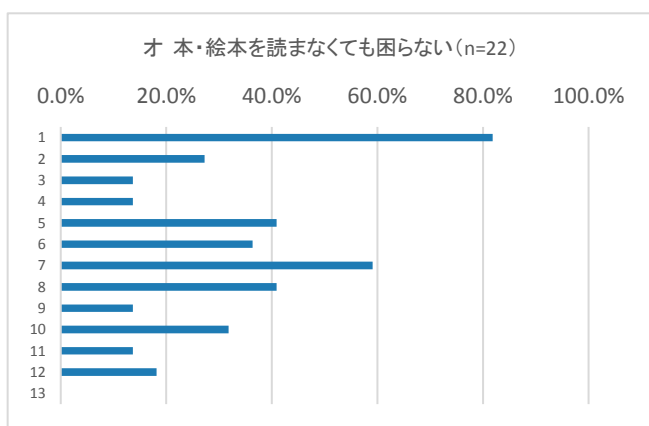


②読書のきっかけ

- ・読書をしない理由に関わらず、読書のきっかけとして「学校で一斉読書の時間があったり、授業の課題で読む必要があること」と「映画やテレビドラマを観たり、マンガを読んだりして、その原作本やノベライズ本に興味・関心を持つこと」の割合が高い。
- ・読書をしない理由が「どんな本・絵本を読んでいいかわからない」である中学生は、他の理由である中学生に比べ、読書のきっかけとして「家族がおすすめの本・絵本を教えられたり、一緒に本・絵本を読んでくれたり、本屋や地域の図書館（図書室）に連れて行ってくれたりすること」の割合が高い。
- ・読書をしない理由が「本・絵本を読む時間がない」である中学生は、他の理由である中学生に比べ、読書のきっかけとして「学校の学級文庫、図書館（図書室）に本・絵本があって、手にとりやすいこと」の割合が高い。
- ・読書をしない理由が「学校や地域の図書館（図書室）で借りるのがめんどろ」「家に本・絵本がない」である中学生は、他の理由である中学生に比べ、読書のきっかけとして「本屋での宣伝・公告、テレビや雑誌、新聞・インターネットでの宣伝・公告を見ること」の割合が高い。

読書をしない理由別（ア～ク）に見た、読書のきっかけ（％）〈複数回答〉





(凡例)

- 1 学校で一斉読書の時間があったり、授業の課題で読む必要があること
- 2 学校の学級文庫、図書館(図書室)に本・絵本があって、手にとりやすいこと
- 3 学校の先生や図書館(図書室)の先生がおすすめの本・絵本を教えてくれること
- 4 教科書などに関連する本・絵本が紹介されていること
- 5 友達のおすすめの本・絵本を教えてくれたり、貸してくれたりすること
- 6 知りたいこと、調べたいこと、興味・関心がひかれることがある
- 7 映画やテレビドラマを観たり、マンガを読んだりして、その原作本やノベライズ本に興味・関心を持つこと
- 8 家族がおすすめの本・絵本を教えてくれたり、一緒に本・絵本を読んだり、本屋や地域の図書館(図書室)に連れて行ってくれたりすること
- 9 家に本・絵本があって、手にとりやすいこと
- 10 地域の図書館(図書室)が身近な場所にあって、借りやすいこと
- 11 読書ボランティアなど、地域の人のおすすめの本・絵本を教えてくれること
- 12 本屋での宣伝・広告、テレビや雑誌、新聞・インターネットでの宣伝・広告を見ること
- 13 その他

【 参 考 】

2 読書の意識関連

読書好きの割合 (%)

	好き	どちらかと言え ば好き	どちらかと言え ば嫌い	嫌い	その他	無回答
岡山県 (公立) n=15,125	39.7	29.5	18.8	11.8	0.0	0.1
国 (公立)	38.9	29.1	19.1	12.8	0.0	0.1

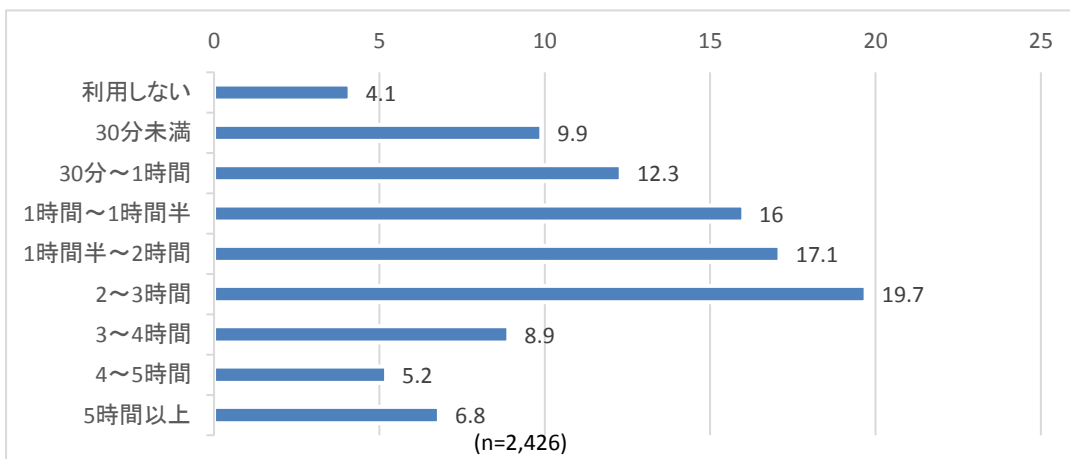
文部科学省・国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 (中学校調査) (R元)

3 読書をしない理由と読書のきっかけ ソーシャルメディア等の利用関連

自分のスマホを持っている割合 (%)

中学1年生	64.6
中学2年生	70.1
中学3年生	80.4

平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合 (%)



岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 スマートフォン等の利用に関する実態調査 (R2)